

◆業績が好調です。

「2021年度は、受注高、売上高、営業利益とも過去最高を更新、ROIC（投下資本利益率）は10・7%と、目標としていた7・6%を1年前倒しで大幅に上回る事ができた。風水力事業と精密・電子事業が好調に推移したのが要因で、とくに海外ではコロナ禍から経済成長へと舵を切ったのが追い風となった」



2022トップインタビュー

◆精密・電子は新たな設備投資も決めました。「半導体市場の設備投資は高水準で推移しており、予想を上回る受注を確保した。部品などが入手しづらくなっていることから先行発注された側面もあるが、当面、高い需要は持続するとみてい

る。CMP（化学的機械研磨）装置については熊本事業所にK1棟、K2棟があり昨年3ライン目を立ち上げ、さらに4ライン目の増設を行う予定だが、さらなる需要増に対応するためK3棟の新設を決めた。藤沢事業所には研究棟を建設、微細化への対応など次世代技術に対応するための研究

荏原製作所

浅見 正男 社長



よる受注の判断も仰ぐことで収益性が上がってきている。事業部長や工場長による受注の判断も的確で収益性が上がってきた。昨年買収したトルコのポンプメーカーとのクロスセルも順調で、サービス&サポートの売上率も伸ばしていく」

を強化させる。ドライポンプについては最新設備を導入したV7棟を立ち上げ、昨年夏には自動組み立てなど本格的に稼働開始、当面の需要増には対応できる見込みだ」

◆社長直轄で水素関連事業プロジェクトをスタートさせました。「2050年のカーボンニュートラルの実現に向けて当社の持つ技術で貢献したい。運ぶというところでは、水素をそのまま圧縮してパイプラインで運んだり、天然ガスに水素を混焼する際に使われるコンプレッサーがある。また、ポンプはマインス160度Cで運搬・保管されるLNG（液化天然ガス）で使われており、その極低温技術を利用できることを考えている。現在、開発を進めており

◆新事業はいかがですか。「2年前に提携したりジョナル・フィッシュとは共同で陸上養殖を手がけており、昨年には『22世紀鯛』22世紀ふぐの

術を持つのは当社のみで、その強みを生かした。使う、作るの領域でも研究を進めていく」

◆2年前に提携したりジョナル・フィッシュとは共同で陸上養殖を手がけており、昨年には『22世紀鯛』22世紀ふぐの

販売を開始するまでにいった。ゲノム編集技術を用いて育成した水産物として初となるもので、まだ規模としては小さいが、食料問題などに貢献できる事業と期待している。このほかバイオ、エコの分野でも取り組みを強化している」

電子・精密分野の研究強化

需要は持続するとみてい

荏原製作所

浅見 正男 社長



よる受注の判断も仰ぐことで収益性が上がってきている。事業部長や工場長による受注の判断も的確で収益性が上がってきた。昨年買収したトルコのポンプメーカーとのクロスセルも順調で、サービス&サポートの売上率も伸ばしていく」

を強化させる。ドライポンプについては最新設備を導入したV7棟を立ち上げ、昨年夏には自動組み立てなど本格的に稼働開始、当面の需要増には対応できる見込みだ」

◆社長直轄で水素関連事業プロジェクトをスタートさせました。「2050年のカーボンニュートラルの実現に向けて当社の持つ技術で貢献したい。運ぶというところでは、水素をそのまま圧縮してパイプラインで運んだり、天然ガスに水素を混焼する際に使われるコンプレッサーがある。また、ポンプはマインス160度Cで運搬・保管されるLNG（液化天然ガス）で使われており、その極低温技術を利用できることを考えている。現在、開発を進めており

◆新事業はいかがですか。「2年前に提携したりジョナル・フィッシュとは共同で陸上養殖を手がけており、昨年には『22世紀鯛』22世紀ふぐの

術を持つのは当社のみで、その強みを生かした。使う、作るの領域でも研究を進めていく」

◆2年前に提携したりジョナル・フィッシュとは共同で陸上養殖を手がけており、昨年には『22世紀鯛』22世紀ふぐの

販売を開始するまでにいった。ゲノム編集技術を用いて育成した水産物として初となるもので、まだ規模としては小さいが、食料問題などに貢献できる事業と期待している。このほかバイオ、エコの分野でも取り組みを強化している」

中期経営計画「E-Plan 2022」では経営指標としてROIC、ROEを重要視してきたが、「競争力を高めるためには必要ときに必要な投資が行えなければいけない」と述べ、収益レベルをさらに高めたいと話す。サプライヤーから信頼が得られれば受注は増え、結果としてボリュームも増える。最終年度と注目の今年度のさらなる飛躍を目指したい。

（多賀恵子）